

六 1 情報の取り出し・理由や事例を挙げた記述 通過率 47.5%

3文目
そのため、見に行けるのは、十四時の回だけになる。

2文目
しかし、見学のやくそくでは見学時間は十三時三十分から十六時までと決まっています。

1文目
イベントスケジュールを見ると、アシカショーは十三時から十四時からの二回行われている。

【正答例】
○ あとの文もよく読んで三文で書くこと。
○ 二文目は、「しかし」というつながり言葉に続くように書くこと。

【注意】
前田君は、なぜそう考えたのでしょうか。その理由を次の【注意】に合わせて書きましょう。

【注意】
アシカショーは二回あるけど、ぼくたちは十四時の回しか見に行けないね。

1 アシカについて調べている前田君のグループは、アシカショーに行く計画を立てようとしています。前田君はしおりを見て、あることに気づきました。

ひろしま水族館 見学のしおり

見学のやくそく
①見学目的…海に住む生き物の持ちょうと生活の様子を、グループごとに調べる。
②見学時間…13:30～16:00
③集合場所…ふれあい広場
時間を守って行動しましょう。

ひろしま水族館イベントスケジュール

場所 時間	ライブ プール	ラッコ プール	ペンギン プール	海 の 研究所	ふれあい 広 場
13:00	アシカ ショー			しつ問 タイム	
13:30		ラッコ 観察			
14:00	アシカ ショー		ペンギン タイム	しつ問 タイム	
14:30		ラッコ 観察			なでなで タイム
15:00			ペンギン タイム	しつ問 タイム	
15:30		ラッコ 観察			
16:00				しつ問 タイム	なでなで タイム
16:30					

【見学のしおり】
六 海の生き物について調べ学習をしている広島小学校の五年生は、ひろしま水族館へ見学に行くことになりました。次の【見学のしおり】を使って、当日の行動計画を考えています。あとの問いに答えましょう。

問題の趣旨

複数の資料から必要な情報を取り出し、それらを関係付けて論理的に説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

- 【第3学年及び第4学年】B書くことウ 書くこととするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
- C読むことイ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

主な誤答と傾向

解答類型（主な誤答）	割合(%)
アシカショーの開始時刻について説明しているが、そのうち一回は見学のやくそくがどうであるから見るできないのかを十分に説明できていない。	4.3
アシカショーについても見学のやくそくについても説明していない。	2.6
上記以外の解答	35.2
無解答	10.3

【傾向】

この問題は、無答率が10.3%である。他の問題で一番無答率が高いものでも9.9%（漢字の書き）であることから児童にとって難易度が高かったことが分かる。この問題は、まず前田君の「アシカショーは二回あるけど、ぼくたちは十四時の回しか見に行けないね」という発言が、見学のしおりに書かれている「ひろしま水族館のイベントスケジュール」にあるアシカショーの時間と「見学のやくそく」にある見学時間の二つの事柄を根拠に述べられていることを理解する必要がある。

【前田君の発言の根拠となる情報】

- ・ アシカショーの時間…13時から13時30分までと14時から14時30分までの2回
- ・ 見学時間…13時30分から16時まで

しかし、資料自体を読み取ることに加え、そこから、【前田君の発言の根拠となる情報】を取り出すことに課題があったと考えられる。さらに、【前田君の発言の根拠となる情報】の2点を関係付けながら、「しかし」というつなぎ言葉を使って三文で書くという、条件に応じた記述をすることにも課題があったと考えられる。

指導のポイント

- 文章と図表やグラフなどを関係付けて自分の考えをまとめる学習を仕組みましょう。



文章と図表やグラフなどを関係付けて自分の考えをまとめる学習を仕組むことによって、児童が次のようなことを理解したり判断したりする必然性が生まれます。

- ・ 文章の内容、提示されている図表やグラフがそれぞれ何の情報を表しているのか
- ・ どの言葉や数字に着目すればよいのか

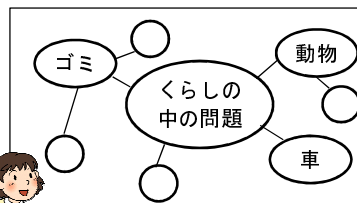
授業例

第一次

- 身近な「暮らし」に関わる社会問題について、自分の考えたことを図表やグラフなどと関係付けて伝える文章を書くという学習計画を立てる。



例えば、自動車の交通量やゴミの問題、動物と人間の共生の問題などが考えられます。こういった身近な社会問題について興味・関心をもたせ、自分の考えを発信したいと思わせるような導入を仕組みましょう。その際、教師が実際にどれかの社会問題を取り扱い、文章のモデルを具体的に示しましょう。そうすることで児童は単元のゴールのイメージを明確にもつことができるようになります。



私はゴミの問題について自分の考えを伝えたいわ。

第二次

- 「暮らし」の問題に関する図表やグラフなどの資料を集め、自分の考えに合う資料を選び、それらを用いて自分の考えが伝わるように文章を書く。



児童向けの統計資料などを活用して図表やグラフを集めさせることが考えられます。その際、集めた図表やグラフについて、自分の伝えたいこととどう関係するのかを考えさせながら情報を読み取らせることが大切です。

〇〇市のゴミの量	
種類	量(t)
燃える	5876
燃えない	465
資源	42
有害	8

これは市の種類別のゴミの量を表したものだね。燃えるゴミが特に多いことが分かるよ。自分の伝えたいことに使えるのは…



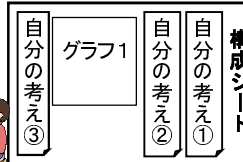
図表やグラフから読み取らせること

- ・ 何を示しているのか。
- ・ どんなことが分かるのか。
- ・ 自分の考えの根拠になるのはどの部分か。 等



図表やグラフと自分の考えをどのように構成すれば、より自分の伝えたいことが明確になるのかを考えさせましょう。個人だけでなく、ペアやグループを使ってお互いにアドバイスし合うのも効果的です。

グラフ1は「自分の考え②」とはつながっていないんじゃないかな。



第三次

- 互いの文章を読み合い、自分が取り上げた以外の社会問題に対する考えをもち、交流する。



社会科や総合的な学習の時間等でも図表やグラフ等の資料を活用して文章を書く活動はありますが、その際、国語科での学習の流れを想起させ、国語科での学びを生かして同様の手順で書かせることが力の定着につながります。